

令和7年度 自己評価シート【五本木住区センター児童館】

1、福祉サービスの基本方針と組織

1－1 理念・基本方針

1－1－(1)

理念、基本方針が明文化（児童館内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等））され周知が図られている。

【判断基準】

- (a) 児童館の理念、基本方針が適切に明文化されており、職員、利用者等への周知が図られている。
- (b) 児童館の理念、基本方針が明文化されているが、内容や周知が十分ではない。
- (c) 児童館の理念、基本方針の明文化や職員、利用者等への周知がされていない。

【自己評価】

実践例（取組や記録等）

a)、 b)、 c)

・児童館利用案内の内容を精査し、配布を通じて周知を図った。今年度は休館期間があり、利用者へどの程度周知されたか不明なところもあるため、引き続き利用者への案内や配布をする中で周知を図っていく。
・毎月の児童館だよりの中で、事業目的や催しの様子などを掲載し、また地域との会議の中でも伝え、理解を得ている。

1－1－(2)

理念、基本方針の確立・周知について

良いと思う点

改善が必要だと思う点

児童館事業は、理念に基づき計画、実施している。地域の行事や会議、近隣施設に出向く際は、理念や基本方針に沿った事業の意図を丁寧に伝え、周知と理解を図っている。

毎月の児童館だより他、利用案内などの発行物が、利用者に伝わりやすい内容であったか、引き続き内容等の精査をしていく。

2、児童館の活動に関する事項

2－1 児童館の理念・目的及び施設特性

2－1－(1)

児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいる。

【判断基準】

- (a) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいる。
- (b) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいるが、十分ではない。
- (c) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいない。

【自己評価】

実践例（取り組みや記録等）

<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	地域の子育て支援や、館運営において、子ども達の意見を尊重した遊びや支援方法などについて盛り込んだ年間事業計画を立て、実施している。
2－1－(2)	児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の施設特性を發揮している。
【判断基準】	
(a) 児童館の施設特性を發揮している。	
(b) 児童館の施設特性を發揮しているが、十分ではない。	
(c) 児童館の施設特性を發揮していない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	<ul style="list-style-type: none"> ・0歳から18歳までの児童と、その保護者が安心して利用できるよう心掛けている。 ・異年齢の子どもたちが一緒に安心して過ごせる場所となるために環境整備をした。 ・異年齢の子どもたちが日常活動や事業を通して、学年を超えた関わりや、つながりが深まるような働きかけをしている。 ・職員から積極的に利用者に関わり、信頼関係を築き、深める中で、利用者が困ったとき、悩んだときに話をしやすい関係作りに努めている。
2－1－(3)	子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。
【判断基準】	
(a) 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	
(b) －	
(c) 子どもの権利擁護に関する取組が十分ではない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	<ul style="list-style-type: none"> ・年に4回「こども会議」を実施し、子どもたちが自分の意見を発信できる機会を作り、その意見を日常活動に取り入れている。 ・職員として子どもの性別や個人差や国籍等による子どもの自尊心や人権に配慮して関わるように努めている。
2－1－(4)	児童館の理念・目的及び施設特性について
良いと思う点	改善が必要だと思う点
<ul style="list-style-type: none"> ・児童館が児童とその保護者にとって安全に、安心して過ごすことのできる居場所の一つになっている。 ・子どもたち自身が自主性や主体性をもって異年齢の子どもたちと一緒に遊び、過ごすことができる。 	<p>子どもたちの成長過程に必要な人との関わりや、遊びについて模索し、環境を整えながら、子どもたちの意見も取り入れ、実施していく。</p>

2-2 遊びによる子どもの育成

2-2-(1)

子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っている。

【判断基準】

- (a) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っている。
- (b) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っているが、十分ではない。
- (c) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解していない。

【自己評価】 実践例（取り組みや記録等）

<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	日々の職員間打ち合わせの中で、子どもの様子について情報共有を行い、一人ひとりの子どもの成長、発達状態を把握した上で、全職員が共通認識の中で、より丁寧な対応ができるように努めている。
--	--

2-2-(2)

子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしている。

【判断基準】

- (a) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしている。
- (b) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしているが、十分ではない。
- (c) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしていない。

【自己評価】 実践例（取り組みや記録等）

<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	児童館のどの部屋においても子どもの自発的な遊びができるように環境を整えている。職員は、声かけや、一人ひとりのサポートなどをする中で子どもたちの思いや考えに気付き、迅速に対応できるよう努めている。
--	---

2-2-(3)

子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助している。

【判断基準】

- (a) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助している。
- (b) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助しているが、十分ではない。
- (c) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるような援助を行っていない。

【自己評価】 実践例（取り組みや記録等）

<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	各部屋で、日常活動を送る中で、年齢など関係なく仲間と遊ぶ姿が見られている。行事開催時は、子どもスタッフの役割を通して、行事開催に向けた話し合いや、準備活動を通して異年齢の仲間と一緒に取り組む姿が見られている。
--	--

2-2-(4) 遊びによる子どもの育成について

良いと思う点	改善が必要と思う点
遊びを通して相手の気持ちや考えを知ることで、子どもたちの健全育成において必要な関わりを持てる機会となっている。 異年齢の子どもたちが遊びを通して関わりながら楽しく過ごすことができている。	遊びの中で、勝ち負けにこだわり、相手に対して不適切な言動をとってしまう子もいる。自分の気持ちに折り合いをつけることを、遊びの中で習得できるよう支援していく。

2-3 児童館の安全管理

2-3-(1) 緊急時（事故、感染症の発生時など）の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。

【判断基準】	実践例（取り組みや記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	・「災害時初期対応マニュアル」「アレルギー対応マニュアル」に基づき、毎月避難訓練等を実施し、日常的に災害等に備えるとともに、子どもたちが自分で考えて行動できるようにしている。 ・「災害用伝言ダイヤル」や「安心でんしょばとシステム」など、いざという時に、迅速かつ正確な情報提供を利用者にできるように訓練を実施している。また、自館の施設状況等に沿った危機管理のマニュアルに基づいて対応を行っている。

2-3-(2) 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。

【判断基準】	実践例（取り組みや記録等）
(a) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集し、要員分析と対応策の検討を行い実行している。 (b) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集しているが、要員分析と対応策の検討が十分でない。 (c) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集していない。	

【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
--------	---------------

a)、 b)、 c)

- ・日常的に実施している施設点検のほかに、地震や台風や大雪などがあった後は必ず施設点検を行い危険個所や壊れている場所がないか確認している。
- ・地震や悪天候などの時には、保護者に連絡し、児童が安全に帰宅できるようするなどの対応を実施している。
- ・不審者対応やケガ対応、感染症対応については、五本木住区センター児童館「危機管理マニュアル」に準じて対応を行っている。
- ・地域、学校、PTA などと連携して登下校路の安全点検に参加し、また地域安全マップの作成などを行っている。